

「みんなで調べる中海流入河川調査」報告書

学 校 名 (団体名)	島根県松江市立意東小学校
連 絡 先	TEL:0852-52-4680 FAX:0852-52-4696 E-Mail:itou-e@city.matsue.ed.jp
調査参加者	参 加 者：5年生 35名 指 導 者 名：奥谷 克朗

その他調査したこと、考えたこと、水質を改善するために行ったこと、感想など

(自由に記載ください。紙面が足りない場合は別の紙にまとめて添付してください)

☆きっかけ

・意東地区では、昔「赤貝日本一」だったということを知ったが、現在はとれなくなったとすることを学習した。そこから、なぜそのようなことになったのかを学習することとなった。

☆流れ 1

・予想として、中海の環境が悪くなり、赤貝がとれなくなったのではないかと考え、学習計画をたてた。一つは、河川調査に参加する。もう一つは、現場の声を聞く、と言う方法だった。

☆流れ 2

・河川調査は、「みんなで調べる中海流入河川調査」と「斐伊川水系水辺環境調査」に参加させていただき、学習を始めた。

○意東川の調査より

・意東川は子どもたちが考えていたよりきれいで、流量もあった。特に、きれいなところに生存する「ブヨ」がいたことに驚いた。また、元意東公民館前には親水公園があり、意東川でたくさん遊ぶことができた。改めて、意東川がきれいなことを実感した。

・「ペットボトルのわずかなお茶でも、水質に変化が現れる。」と言う実験を通じて、生活排水をそのまま流さないようにしようとか、ジュースなどを川に捨てないようにしようとか言うことを学んだ。また、そのことで壁新聞を作成した。

○中海の調査より

・「白鳥海岸でアサリを捕ろう」ということで、子どもたちは意気揚々と臨んだが、残念ながらその願いは叶わなかった。その原因は、この夏の大洪水だった。宍道湖に斐伊川からの大量の雨水が流れ込んだことにより、塩分濃度が薄まり、その結果としてアサリがいなくなったということだった。しかし、驚いたことかわりに「シジミ」が生存していたことだった。そんな因果関係に、子どもたちの驚きは大きく、自然の摂理に感心させられた。

☆流れ 3

・中海漁協の方を学校に招いて、「赤貝」についてお話を聞かせていただいた。赤貝は絶滅してなかったこと。その復活に努力していること。水質をきれいにしてほしいことなどの話を伺い、再度、環境の大切さについて考えさせられた。

・そのことを考えながら、意東小学校で赤貝を13kg販売した。

☆結果として

・中海の水質は、我々が意識しなければ守っていけないこと、そのためにも「水質」について考え、学び続けなければいけないことなどを学んだ。まずは、一人一人の家庭から広げていこうと言うことになった。また、今後、発表会をしようということとなった。

みんなで調べる中海流入河川調査 調査結果表

学校(団体)名：島根県立松江私立意東小学校

川の名前	意東川
調査地点名	元意東公民館前 親水公園

	1回目	2回目	3回目	4回目	5回目
調査日時	10/22	11/19	12/24		
天候(当日)	晴れ	晴れ	晴れ		
天候(前日)	晴れ	晴れ	曇り		
気温(℃)	19℃	21℃	14℃		
水温(℃)	16℃	14℃	9℃		
COD(mg/l)	4	2	2		
透視度(cm)	100	80	100		
その他項目	特になし	水が冷たくなった。 流れが急だった。	水が非常に冷たい。 水量は十分あった。		